

- わなの見回り作業を軽減するため、町はICTを活用した捕獲通報システム（見回り楽太郎Ⅱ）を導入。
- この結果、見回りの負担軽減分がわなの増設につながり、捕獲数の増加により被害が減少。
- ICT捕獲わなでの捕獲情報の連絡により効率的な捕獲・回収が可能となり、わなの再設置を含め、作業の迅速化を実現。

土庄町の課題

とのしょうちよう

土庄町では、農作物における鳥獣被害の増加に伴い、くくりわなによる有害捕獲を実施している中、見回り作業の負担が大きい。

○ わなの見回りに労力がかかる

わなの見回りを毎日1回以上行うことが必要だが、設置したわなが地域に点在しており、特に山間部への見回りの労力負担が大きく、悪天候時はさらに時間がかかる。

町内に罠が点在している

毎日の確認がしんどいな～



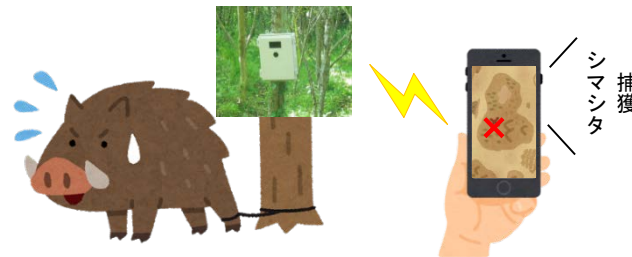
ICT捕獲わなの導入

「ICT捕獲わな（くくりわな）」を活用した鳥獣被害対策システムを導入。

【平成28年度ICTまち・ひと・しごと創生推進事業（総務省）】

○ 携帯電話ネットワーク網の活用

くくりわなが作動すると、指定した捕獲従事者のアドレスにメールで通知され、その後の捕獲作業が効率的になった。



携帯電話の通信を活用してわなが作動した際に、メールで通知（最大5名までに送信が可能）

〔＜経費（1台あたり）＞
導入経費：約300,000円
通信費等：1,800円/月〕

導入の効果

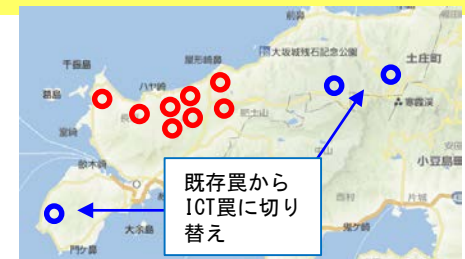
平成28年に導入した結果

○ 見回りの省力化

これまでの毎日の見回り確認が、ICTわな設置により、1ヶ月に1度の確認となったことから、負担の軽減分がわなの設置数の増加に貢献（一人当たり2～3基増設）。

○ 設置場所の柔軟性

あえてICTわなを山間部、遠隔地に設置することで、確認時間が軽減され、近所の捕獲要請にも機動的に対応可能。



既存農からICT罠に切り替え

＜効果＞

- 見回り回数の軽減（毎日→月1回（30分の1に軽減））
- 被害額 3,356万円（H25）⇒ 979万円（H29） 約7割減少
- 捕獲数 372頭（H25）⇒ 1,388頭（H29） 3.7倍（獣種：シカ、イノシシ、サル）



見回り確認が省け、近所の捕獲要請にも機動的に対応できるよ。